

2026年『白氏文集』現代語訳

さうぜんタリ

① 蒼然

両片石

そノ

② 厥状

かい
かつ
しゅう

怪且醜

訳…①古びている。二つの石。

②その形状は奇怪で、そのうえ醜悪だ。

二

ク

フル

じじん

ヒテ

ラ

③^a 俗用

無レ所レ堪

④ 時人

嫌 不レ取

訳…③世俗の実用には役立つことができないので

④世の人々は（その石を）嫌って手に取ろうともしない。

ビ

より

はいこんノメ

⑤ 結レ 従ニ 胚渾 始一

う

⑥ 得レ

より

自ニ 洞庭口一

ノほとり

訳…⑤（石は）天地創造の初めから凝結しており、

⑥（私は）太湖に浮かぶ洞庭の水際から手に入れた。

ばんこヨリ

のこサレ すいひんニ

⑦ 万古

^b 遺ニ 水浜一

ニシテイル

ガてニ

⑧ 一朝

入ニ 吾手一

訳…⑦（この石は）大昔から（長期間）、水辺に取り残されており、

⑧ある朝、（短期間で）私の手に入った。

よシテ

きたシ

ニ

⑨ 担舁

来ニ 郡内一

シテ

⑩ 洗刷

ル

去ニ 泥垢一

こつヲ

訳…⑨力を合わせて担いで、（石を私の）公舎に運び入れ、

⑩こすって洗い、泥や汚れを落とした。

⑪ 孔 黒 あな ク

煙 痕 深 えんこん ク

⑫ 罇 青 苔 色 厚 ひび ク たいしよく シ

訳…⑪ (石にある) 穴は黒く、深くまで煤けているようで、

⑫ (石にある) ひびは青く、厚く苔が生えているようだ。

⑬ 老 蛟 かう かう

蟠 作 足 わだかまりテ なり あしト

⑭ 古 剣 挿 為 首 さしはさミテ ル かうベト

訳…⑬ (石の下部は) 老いた竜がとぐろを巻いて台座を作り、

⑭ (石の上部は) 古剣が突き刺さって頭の形となっている。

⑮ 忽 疑 たちまち フ

天 上 落 ヨリ ツルカト

⑯ 不 似 二 人 間 有 一 じんかんニルニ

訳…⑮ ふと疑ったのは、(この石は) 天上から落ちてきたのではないかと

⑯ (この) 人間世界にあるものとは思えない。

⑰ 一 可 支 二 吾 琴 一 いちハ ク フ ガヨ

⑱ 一 可 貯 二 吾 酒 一 いちハ シ たくは フ ガヨ

訳…⑰ 一つ(の石) は私の琴を立て掛けることができ、

⑱ もう一つ(の石) は私の酒を入れることができる。

⑲ 峭 絶 せう セ

高 数 尺 サ

⑳ 坳 泓 容 一 斗 あうわう いルコト いっト

訳…⑲ (琴の台にする石は) 切り立っていて、高さは数尺あり、

㉑ (酒の樽にする石は) くぼみが深く、一斗(もの酒が) 入る。

㉑ 五 絃 倚 二 其 左 一 よセ ノニ

㉒ 一 杯 置 二 其 右 一 ク ノニ

訳…㉑ 五弦の琴を、その左(の石) に立てかけ、

㉒ 一杯の盃を、その右(の石) に置いた。

②③ 窪樽 わそん メドモダ おなシカラ
酌 未空 ②④ 玉山 ぎよくざん
頽 已久 くづレテすてニシ

訳…②③ (大きな石の窪みを利用した) 酒樽からは、
いくら (酒を) 汲んでも、まだ空にならず、
②④ (私は) 酔いつぶれても風格を保ちつつ、もう長い時が経った。

②⑤ 人皆 有レ所好 ム
②⑥ 物各 求ニ其偶^d ものおの もとム そノぐうヲ

訳…②⑤ 人は皆 (それぞれに) 好みがあり、
②⑥ 物 (つまりこの二つの石) もそれぞれ自分の (好みの) 友を求めるものだ。

②⑦ 漸 恐 少年場^{やうやクル} ②⑧ 不^e容ニ垂白叟^{ざルヲいレ} ノそつヲ

訳…②⑦ だんだんと、 (私は) 恐れるようになった。若者たちの集まる場で、
②⑧ 白髪の老人 (である私) を受け入れてくれないのではないかと。

②⑨ 廻^{めぐるシテ} 頭^{かうベヨ} 問ニ双石^フ ③⑩ 能^f伴ニ老夫^ク 否^{フヤ} ヲ

訳…②⑨ 頭 (の向きを) を (石の方に) 回して、二つの石に尋ねる。
③⑩ 「(石よ、お前たちは私という) 老人を友にできるか、どうか」と。

③① 石雖^モ 不^ト能^ハ言^フ ③② 許^{シテ}我^ヲ 為^{たラシム} ニ三友^ニ

訳…③① 石は (何も) 言うことができないけれども、
③② 私を (二つの石とで) 三人の友となることを許可してくれた。